

課題名	9 常緑果樹における植物生育調節剤の利用		分類	①																														
	フィガロン乳剤による温州ミカンの隔年結果防止のための枝別全摘果																																	
試験研究年次	63~1年(完了)																																	
<p>I 目的</p> <p>温州ミカンにおける隔年結果防止のための枝別全摘果について、フィガロン乳剤の利用を検討し、摘果作業の省力化を図る。</p>																																		
<p>II 試験方法</p> <p>1 試験場所 園芸研究所果樹圃場</p> <p>2 供試品種 加好台興津早生</p> <p>3 供試薬剤 フィガロン乳剤(エチルピト-ト20%)、エスレル液剤(2クロロエチルスルホン酸10%)</p> <p>4 処理方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>フィガロン乳剤濃度</th> <th>エスレル液剤濃度</th> <th>散布時期</th> <th>散布回数</th> <th>散布方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>1,000倍</td> <td>+ 2,000倍</td> <td>6月上旬</td> <td>1回</td> <td>枝別散布</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>1,000倍</td> <td>+ 4,000倍</td> <td>6月上旬</td> <td>1回</td> <td>枝別散布</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1,000倍</td> <td>-</td> <td>6月上旬</td> <td>1回</td> <td>枝別散布</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>無処理</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ① 散布日 63年6月6日、1年6月1日(満開後15~20日の生理落果盛期)</p> <p>② 散布枝 直径1.5~2.0cmの側枝、1区3側枝3反復</p>					区	フィガロン乳剤濃度	エスレル液剤濃度	散布時期	散布回数	散布方法	A	1,000倍	+ 2,000倍	6月上旬	1回	枝別散布	B	1,000倍	+ 4,000倍	6月上旬	1回	枝別散布	C	1,000倍	-	6月上旬	1回	枝別散布	D	無処理	-	-	-	-
区	フィガロン乳剤濃度	エスレル液剤濃度	散布時期	散布回数	散布方法																													
A	1,000倍	+ 2,000倍	6月上旬	1回	枝別散布																													
B	1,000倍	+ 4,000倍	6月上旬	1回	枝別散布																													
C	1,000倍	-	6月上旬	1回	枝別散布																													
D	無処理	-	-	-	-																													
<p>III 主要成果の概要</p> <p>枝別全摘果法としては、満開後15~20日の生理落果の盛期にフィガロン乳剤1,000倍とエスレル液剤4,000倍の混用散布が有効である。</p> <p>1 満開後15~20日にフィガロン乳剤1,000倍を散布することにより95%以上の摘果効果が期待でき、さらに、エスレル液剤を混用すると、散布後20日以内に100%の摘果ができる。</p> <p>2 エスレル液剤の混用濃度は、4,000倍が落葉率が低く、安全である。</p> <p>3 全摘果した側枝は、翌年の着花が多くなる。</p>																																		

IV 主要成果の具体的データ

第1表 摘果剤の散布と落果率並びに旧葉の落葉率 (1年)

試験区		6月1日		6月26日			旧葉の 落葉率
フイガロン乳剤 濃度	エスレル液剤 濃度	着葉 数	着果 数	着果 数	落果 数	落果 率	
倍	倍	葉	個	個	個	%	%
1,000	+ 2,000	348	89	0	89	100	26
1,000	+ 4,000	328	107	0	107	100	19
1,000	-	326	85	1	84	98	19
無処理	-	248	65	27	38	59	11

注) 着葉、着果数は1側枝 (直径1.5から2.0cm) 当たり

第2表 摘果剤の散布と落果率の推移 (1年)

試験区		落果率					
フイガロン乳剤 濃度	エスレル液剤 濃度	6月1日	6日	10日	16日	21日	26日
倍	倍	%	%	%	%	%	%
1,000	+ 2,000	0	21	83	99	100	100
1,000	+ 4,000	0	21	83	99	100	100
1,000	-	0	20	68	98	98	98
無処理	-	0	8	31	52	56	59

第3表 摘果剤の散布による落果率と翌年の着花数 (63年)

試験区		6月27日			翌年の 着花数
フイガロン乳剤 濃度	エスレル液剤 濃度	落果 率	結実 数	落葉 率	
倍	倍	%	個	%	花
1,000	+ 4,000	99	2	11	74
1,000	-	98	2	5	114
無処理	-	84	21	9	4

注) 着葉、着果数、着花数は1側枝 (直径1.5から2.0cm) 当たり

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 温州ミカンにおける隔年結果防止のための枝別全摘果技術の省力化法として利活用でき、植物生長調節剤使用基準に記載する。
- 2 薬液の散布は、摘果しない枝にはかからないよう散布器のノズルを小さくして薬液の飛散範囲を狭くして行う。
- 3 樹勢が弱い樹でのフイガロン乳剤やエスレル液剤の散布は落葉を助長したり、樹勢衰弱を招くので使用しない。

VI 今後の研究上の問題点

フイガロン乳剤の枝別連年散布が樹勢に及ぼす影響

VII 資料名

63~1年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書